TALK & TALK 市民談話室

日ごろ考えていることや身の回りの出来事などを、500字程度にまとめて投稿してください。紙面の都合上、若干手直しさせていただくこともあります。あて先は広報広聴係（〒950-12　白根市大字白根1235　白根市役所企画調整課）です。

清水和佳子
（五六の町）

夕焼けノスタルジー　素晴らしい白根の夕焼け

ここ二年ほど、仕事の都合で白根にいないことが多い。時がたつにつれて、ホームシックになることはなくなってきたが、どうしても家に帰りたくなる時間がある。それは夕暮れ時だ。太陽が西の空に落ち込んでゆく様子を見ていると、「帰りたい…」という、たとえようのない寂しさが私の胸を締め付ける。強いノスタルジーが沸き上がってくるのだ。

子供のころは夜や闇が怖くて嫌いだった。だから夕日を見ると、それはこれから暗くなるぞという合図で、早く安心できるところに行きたくなる。ちょうどこのくらいのときになると、母が迎えにやってきて、遊び仲間と別れを告げ、その日あったことを話しながら家に帰るのだ。家に帰れば夜でも明るいし、家族で食卓を囲めば怖いことなんてない。ささやかだけど、とても幸せだと思う。

白根の夕焼けはとてもきれいだ。中ノ口川の土手の向こうに、空を染めてゆっくりと日が沈んでゆく光景を私はずっと見てきた。この夕焼けがよそのどんな所で見るものよりも、美しくとても温かい。いくつになっても、どこに行っても私が帰りたくなるくらいに。ぜひ皆さんも心が疲れたときに、この白根の夕焼けを見ていただきたい。きっと何かしら温かいものが込み上げてくるはずだ。

中山雅子
（五六の町）

「献体」は人生最後のボランティア

店のお客様との会話の中で、長年考えていた「献体」の手続きを取ることができ、もう五年も過ぎました。

「献体」というと、まだまだ偏見を持っている人が多く、私も肉親の同意を取り、十分理解してもらうのに時間がかかりました。昔は身寄りのない人、変死した人が解剖体のかなりの割合を占めていたそうです。最近では七〇～八〇％が本人の意志により、生前から手続きが取られている「献体」だそうです。しかし、問題がないわけではなく、「献体」に関する無知から来る不安と誤解、また宗教観の相違などさまざまです。

「献体」は生涯の最後にできる無条件、無報酬の奉仕です。もっとカッコ良くいうと、私の人生哲学ともいえるライフスタイルを見つけたのです。この先何年生きられるか分かりませんが、生かさせていただいた感謝の真心を、医学生の尊い学びの一体となって人生最後のボランティアとしたいのです。

山田　実
（砂原甲）

国の先駆け、白根の変革　若い世代に期待

先般の市長選挙では三、四十代の若い世代が、新飯田が変われば白根が変わる、地方が変われば中央も変わるの合言葉で、竹内青年市長の誕生を見、国政の先駆けになりました。

今、各地で地域振興、活性化が叫ばれています。元気の出る地域、元気の出る白根市は、若い世代の力なくして、成り立たないと思います。わが新飯田地区も町村合併以来、人口が減少。児童も減少し、将来小学校の存立も危ぐされる状況です。南部開発について、商工会の音頭で研究会が持たれるようになりましたが、土地利用について、地権者のご理解と行政の指導が待たれるところです。

二十一世紀への変革の時代に、市民はリーダーに若い市長を選びました。議会も市長と同世代の議員を多数選出すべきです。三、四十代の皆様へ期待を持ってエールを送ります。

市民文芸

俳句

治水史が昼寝枕に手頃なる　成沢　素明
やはらかき色もて蟬の生まれたり　小林　光子
もどり梅雨逡巡として秋立てり　樋口　トシ
パン少しこげたる匂ひ朝曇り　堀内ナナ子
配られし紙白々と今朝の秋　安沢　飛浪
つる草のからみて伸びて梅雨あがる　五十嵐寛吾
くちなしの白を極めて開きけり　古川　綾
水盗む母を哀しと思ひけり　猪股　南魚
笠雲のとれし弥彦稲の花　山田　孝
（以上大風会）
雨となり駄々子のごとく蟬暗けり　小野　義之
天の川孫にはやある夜泣きぐせ　山田　栄一
満天の銀河に町の深眠り　真島つぎえ
塾終えし児が駆けて来る天の川　間島喜代子
穂の実り確かむ銀河の薄明かり　小林　なお
病み臥して少しなげきの法師蟬　小林富沙子
法師蟬熟れずじまいの果樹の畑　塚本　静子
鐘楼に梵字の護符や法師蟬　名古屋蒼穹
能登沖に余りて太き銀河の尾　間島　秀穂
（以上かまつか新飯田俳句会）

短歌

菊作りにこころあそばせいつしらに
われも友らと年重ねゆく　織田　護

東京のドームを張るほどの財有らば
施したく想う越の広田に　中村　京

捨子猫空腹知らせ泣き明ける
ひ孫は抱き来る育てると言う　長谷川久二

訪れし鶴がの城の石垣に
今も遺れる弾丸の跡　小出熊四郎

何時までも生ある事と思ひきめ
無事を祈念しつ秋種を播く　小出よしの

川柳

ストレスを捨てて出てくる美容院　吉川　彰
笑い袋いつも持ってる楽天家　米野　光雄
複雑な世を踏みしめて行く夫婦　山岡　フミ
ガン告知千羽で足りぬ鶴を折る　今井　七郎
笛吹けど数の寂しい村祭り　大谷　龍吉
鶴を折る指に静かな空がある　織田　福治
浄土まで続けてほしい福祉の手　織田　セツ
愚痴る妻いなけりゃ矢張り物足りぬ　後藤マサノ
八月の傷を拭いてる精霊花　佐藤トミノ
向き変えただけでセンスが買われて　佐藤　ヨキ
る
川下る鮎に関所となる築場　高橋祐四雄
不問にした女の涙の演技賞　竹石　甚五
お祭りが飯より好きです無職です　田中　成子
祝日の日の丸是非を風に問う　田村　恒夫
本願を信じ写経を繰り返す　中村　尚治
クラス会紛糾曲折の皺の数　西条　ムラ
広報に健在示す五七五　早川　英男
嫁入りの落果の梨がよよと泣き　大井　義雄

高橋末江
（西笠巻新田）

農業集落排水を支える女性の集いに参加して

八月二日、県庁で開かれた「新潟県農業集落排水を支える女性の集い」に、同じ地区の金子ヒサノさんと参加しました。参加者三百五十四人中、女性参加者は県内各地の集落代表など二百五十六人でした。

近年、生活水準の向上により、農村部も都市も、ほとんど変わらない状況です。このため、農村部の水の使用量は増加する一方。生活雑排水などの水質の悪い排水が直接川へ排出され、昔ながらのきれいな川は減ってきています。そこで台所に立つ女性から、農業集落排水を考えてもらおうというのがこの集いです。

集いでは新発田市の主婦、島津里子さんの事例発表がありました。島津さんの集落を流れる川は、二十年前はきれいに澄んでいましたが、洗濯水や台所の排水で、汚れてきました。丹精込めて作った米も、生活排水で汚染されるのかと思うと深刻ですと語っておられました。

その思いは私も同じです。農業に従事していたころは、小川も用水堀もきれいで、米をとぎ、なべやかまを洗い、ふろの水もくんだものです。

それが生活の高度化につれ、川の汚れがひどくなりました。川底は野菜くずなどがへばり付いて白っぽく、ときには油などが流れてきたりして、ひどいものです。当然のように独特なにおいがし、カやハエの発生源になって、文化の向上とは裏腹です。

新発田市は島津さんの地区をモデル地区として、農業集落排水事業の実施を持ち掛けました。集落の話し合いを重ね、受け入れを決定。昭和六十年度に事業がスタートしました。

しかし初めから、すべての人の賛成が得られたわけではなかったそうです。どこも同じだと思いますが、維持費がかかり過ぎるとか、便所の改築費にいらない金がかかるとか、今のままでも不自由ではないなど、不満の声もあったそうです。

しかし、その集落排水事業の完成を一番喜んだのは、家庭を預かる主婦と、子供たちだということです。工事が終わり、快適な水洗トイレが各家庭に出来上がると、不思議なことにあの不満の声が一つも聞こえてこない。それどころか、こんなに良いものをなぜ反対したのかと、反省の声が聞かれるようになったとのこと。夢のような出来事ですと訴えておられました。

広報しろね七月号には「汚していませんか、私たちの川」と題して、川の汚れの七割は生活排水であること、みそ汁一杯の浄化に一トンの水が必要であることなどが書かれていました。また、県快適環境づくり推進委員の島田さんは、水の汚れは市民のモラルが問題で、情報化社会の中で水の情報だけが不足していると語っておられました。

農業集落排水事業は農業用水の水質保全はもちろん、農村の生活環境改善のために、生活雑排水や雨水を処理するものです。この集いでは女性ならではの実態を交換し合い、お互いの目の輝きを確認しました。それは次代を担う子供たちへ、今まで自分たちが汚してきた水をきれいにして返す責任があるからです。都会と同じ水準の、住み良い環境をつくって初めて、後継者問題も解決の糸口になります。また、トイレの洋式化で、高年者にも住みやすい家庭環境を作ることができます。それらのことを考えれば、なお一層、農業集落排水事業を推進していかなければならないことを再認識しました。